

連載 オホーツク ファイン・トレール篇 学長の愛したフィールドの旅

生物多様性に富み付加価値の高い 魅惑の森 “ファイン・トレール”

東京農大北海道オホーツクキャンパスは、多くの大学のキャンパスとは桁違いの魅力がある。網走の観光地の一つとして名高い天都山からほど近く、その山並み連なる場所に整備されている。正門に向かうアプローチに接して教育と研究に機能する圃場がこの度整備された。重厚感ある研究棟などの施設を囲むようにオホーツク海から寄せる風雪に晒されながらも肥大と伸長によって成長したミズナラ、トドマツ、ヤチモダ、シナノキ、シラカンバなどの大径木が聳え立つ魅力の森林の小道、ファイン・トレールが整備されている。大径木の木口面を観察すると年輪幅は狭くこの地の気候はこれまで厳しかったが、近年温暖化が進んでいることを年輪気象学の観点から読み解くこともできるのだ。しかしながら、いまなお道東の大自然の豊かさをこの森林の至る所で実感できることを大切に、後世に地球規模の豊かさを残していくことの意義

もここでは肌で感じることもできる。

ファイン・トレールは、全長約5キロの散策路で森林を堪能するばかりではなく網走湖や能取湖などの自然景観を楽しむことができる。2002年より学生と教職員によって、一次産業における生産現場との共生および調和に関するプロジェクトの一環として東京農大の実学主義の観点から始め

魅力ある森で地球規模の気象変動を実感



ファイン・トレール内の散策コースに生育するハナヒラタケ

オホーツクならではの動植物を堪能

さまざま林相の森林内を巡るとオジロワシやオオワシが上空を勇壮に飛び交うとともにクマガイ、シジュウカラ、ムクドリなどの野鳥のほか樹幹を素早く駆け上るエゾリス、林床の獣道からキタキツネやエゾシカなどさまざまな野生動物が顔を覗かせることもある。ファイン・トレール内の一部はウマやエゾシカなどの放牧場も整備さ

れている。高台からは知床連山やオホーツク海を臨むことができキャンパスと一体化した立地から学生の実習や調査にも利用されている。私自身学長職を遂行しながら昼休みにベニテングタケ、ハナヒラタケ、ヤマイグチなどのきのこを観察するとともに森の妖精の気分となって鋭気を養うこともあるのだ。私のファイン・トレール探索に終焉はない。【文・江口文陽(学長)、写真・阿部雄介】



「農学」の魅力が詰まった本学の展示、多くの高校生や関係者が訪れた。

高大連携教育シンポジウム
本当にあった！
めっちゃオモロイ
「養殖」と
「増殖」の
世界

高大連携水域教育シンポジウムが5月25日、本学と連携協定を結ぶ大阪学園大阪高等学校で開催された。これは大阪高等学校の呼びかけで本学と近畿大学のコラボにより実現したもので、高校側主催で高大が連携した取り組みとして先進的な試みである。日本が抱える水域系の課題に触

「増殖」の魅力、持続可能な漁業のあり方を考える

れることを狙いに、第一部では「本当にあった！めっちゃオモロイ」「養殖」と「増殖」の世界」をテーマに掲げ、両大学の教員が講演した。本学からは海洋水産学科の千葉晋教授が、自然と調和した持続可能な漁業として「増殖」の魅力を高校生達に伝えた。第二部では「農学」を知る」を



OBの活躍

落語家の立川晴の輔さんが日本テレビ「笑点」の新メンバーに

立川晴の輔さんが4月、日本テレビ「笑点」の新メンバーに加わった。1996年、農学部農業経済学科卒業の晴の輔さんから、当時を振り返ったコメント

が届いた。「私が東京農大へ入学したのは1992年の春です。早いもので32年前になります。落語研究会とインフォメーション同好会という

サークルに入会し、アルバイトをしながら充実した学生生活をおくりました。とても楽しい日々でした。生協の前にあった一番飯の井ぶりやアミの大盛りのスパゲッティが今でも食べたいです！思い出すのは大学1年生の秋、はじめての収穫祭の前夜祭で、ライトアップされたステージで演技する全学応援団の「団結節」です。その迫力に深く感動しました。私も今、古典落語という伝統芸能をやっております。伝統を継承する素晴らしさ、難しさ、大切さを改めて感じるの、私は全学応援団の皆さんを応援します、そして私を応援してください!!最後に学生の皆さん、大学生活は今はありません。農大を隅から隅まで味わって、楽しみながら学んでください!!」



2024年4月1日から、寄附金の使い道として新たに「東京農大北海道オホーツクキャンパスの環境の充実と学生確保のために」が新設

納税制度の新設について



2024年(令和6年)7月号
第101号



東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 1891

「総合農学」を推進する

世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

4月・7月・12月 発行
編集 東京農業大学企画広報室
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘 1-1-1
<https://www.nodai.ac.jp/>



HEADLINE

造園科学科100周年／国際食料情報学部、国立屏東科技大学農学院と学部間学術協定／環境大臣賞ほか受賞／胸像新設 2
農大を知るイベント開催／学生寮「青雲寮」着工／復興支援事業 3
浪江町で田植え実習／「美しき土壌の世界展」／きのこ図鑑 3
農友会活動「硬式野球部」世田谷・オホーツク・相模部・馬術部・弓道部／イベント情報 4

SNS 随時更新中
f LINE YouTube BLOG



シンポジウムでのパネルディスカッション

【パネリスト】
岸 孝(プレイスメディア)
田中 希依(国土交通省)
田留 健介(学術情報課程 准教授)
樋口 康成(日比谷アメニス)
細野 達哉(バイオカルチュラルデザイン)

【モデレーター】
福岡 孝則(造園科学科 教授)



造園科学科 100周年

関東大震災(1923年)の復興には「緑を基盤としたまちづくりの視点が必要」という志から創立された造園科学科。これからも人と自然の共生社会を目指して邁進します。

これからの1世紀に向けた
新たな歩みがスタート

本年、東京農科大学地域環境科学部造園科学科は、前身の東京高等造園学校創立から100周年を迎えた。記念事業遂行のための募金に、これまでに多くの寄付を頂いたことに対し厚く御礼申し上げます。さらに江口文陽理事長・学長、柳井重人日本造園学会長、伊藤康行国土交通省都市局公園緑地・景觀課長、萬歳章校友会長から祝辞を頂いた。続くシンポジウムは「農大造園の100年を振り返り、次の100年を展望する」と題し、活発な議論が交わされた。記念祝賀会は、進士五十八緑友会長、和田新也(一社)日本造園建設業協会会長、大場淳一教育後援会長によるご挨拶に始まり、鏡開きを経て卒業生同士が懇親を深めた。【荒井歩(造園科学科学科長)】



記念祝賀会での鏡開き

る。5月18日に開催した100周年式典には、国内外から卒業生約800名が出席した。学生達が企画した演舞および映像によるオープニングセレモニーに続き、創立御三家へ感謝状が贈呈された。さらに江口文陽理事長・学長、柳井重人日本造園学会長、伊藤康行国土交通省都市局公園緑地・景觀課長、萬歳章校友会長から祝辞を頂いた。続くシンポジウムは「農大造園の100年を振り返り、次の100年を展望する」と題し、活発な議論が交わされた。記念祝賀会は、進士五十八緑友会長、和田新也(一社)日本造園建設業協会会長、大場淳一教育後援会長によるご挨拶に始まり、鏡開きを経て卒業生同士が懇親を深めた。【荒井歩(造園科学科学科長)】



厚木キャンパス研究棟前での記念撮影

建学の祖榎本武揚先生と初代学長横井時敬の胸像が、厚木キャンパスと北海道

榎本武揚像と横井時敬像 2キャンパスに新たに設置



オホーツクキャンパス前の除幕式

オホーツクキャンパスに新設された。胸像はいずれも、東京農大卒で(株)ホテルサ

ンバレーの新田恭一郎会長、新田昭代副会長のご寄付により設置された。4月3日に厚木、6月22日にオホーツクで除幕式が行われ、新田会長、榎本武揚先生の子孫 榎本隆充参与、江口理事長・学長をはじめ多くの関係者が出席。後世に先駆者の意志を伝えていく。【住友富美】

高柳長直学部長、徐睿良学部長(国立屏東科技大学農學院)



国際食料情報学部は3月26日に、台湾南部の高雄市近郊にある国立屏東科技大学農學院(農学部)と学部間学術協定を締結した。屏東科技大学は日本統治時代の1924年に農業の専門学校として設

立され、農学部のほか獣医学部、工学部、国際学部など7学部を擁する総合大学である。本学部との関係では、2000年前後から国際農業開発学科の豊原秀和現名誉教授をはじめ、国際農業開発学科の教員が共同研究やセミナーなどで訪問している。一方、本学に在籍・卒業した3名の研究者が屏東科技大学の教員として勤務しており、活発に交流している。

屏東科技大学は本年11月に開学100周年を迎え、記念行事には国際食料情報学部の教員が出席する予定だ。【高柳長直(国際食料情報学部学部長)】



第51回 環境賞 「環境大臣賞」を受賞

東京農大参画の「BSC工法研究」が栄冠

東京農大が日本工営(株)、(株)日健総本社と共同開発する「土壌藻類を活用した自然回復技術の実装」が、第51回環境賞

江口文陽理事長・学長



日刊工業新聞社提供

において最高峰の「環境大臣賞」を受賞した。環境賞(国立環境研究所・日刊工業新聞社共催、環境省後援)は、1974年に創設され、環境保全や環境の質の向上に貢献した時代の要請に応える優れた取組が表彰されてきた。第51回環境賞には過去最高の72件の応募から、環境大臣賞1件、優秀賞1件、優良賞3件が選定された。東京農大は、2022年2月24日に二社と包括連携協定を締結し、土壌藻類を土木資材として土砂災害跡地などに活用し、環境条件に合った自然な植生形成を促進させる研究を共に推進している。日健総本社が土壌表面に生育する藻類を水中で培養し土木資材化することによって成功。土木研究所と日本工営の共同開発である侵食防止工法に採用し社会実装を実現、東京農大はこうした技術に関する研究を実施した。

授賞式は6月4日都内で行われ、本学からは江口理事長・学長と矢部和弘森林総合科学科教授が出席した。【住友富美】

令和6年度 日本栄養・食糧学会 奨励賞

食品安全健康学科
井上 博文 准教授



【研究】抗老化タンパク質を制御する食品成分に関する研究

2023年度 飯島藤十郎 食品科学賞

食品安全健康学科
上原 万里子 教授



【研究】食品成分が調節する代謝機能を介した慢性疾患予防に関する研究

第68回 日本作物学会 学会賞

農学科
垣内 仁 教授



【研究】限定要因法則に基づくダイズの子実生産、窒素同化およびリン酸吸収律速要因の解析

各研究分野で受賞ラッシュ

日本菌学会 第68回大会 奨励賞

分子微生物学科
小泉 敬彦 助教



【研究】氷期遺存樹種ハイマツに共生する外生菌根菌の生態学的研究

日本農芸化学会 2024年度大会 トピックス賞

食品安全健康学科
飯嶋 益巳 教授



【研究】イムノステイック法を用いた食物アレルギーの簡便・高感度検出技術の開発

第57回 生物工学奨励賞 (江田賞)

醸造科学科
中山 俊一 准教授



【研究】清酒酵母の特性解明に関する生化学的・遺伝学的研究



東日本復興支援事業
継続して7年目

浪江町の圃場での田植え実習

「原発被災地」福島県浪江町で行っている福島イノベーション・コースト構想推進機構による「復興知」事業は、2018年度の取り組み開始から今年で7年目を迎えている。2021年度からは「インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト」として基幹産業であ

る農業の新規就農者(雇用就職も含む)や地域の活性化を担う人材育成を目的としたプログラムを実施している。

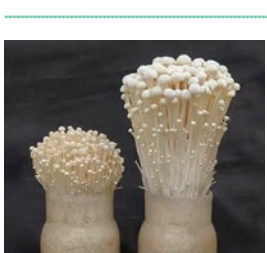
5月12日は3キャンパスから参加した学生40名が町内2カ所に分かれて田植えを行い、農産生産法人・舞台ファームの圃場ではアイリスオーヤマの社員や地元関係者な

【菅原優(自然資源経営学科教授)】



地球環境の悪化が懸念される今、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた重要な取り組みにおいて、「土壌は

特に重要な役割を果たす。特に土壌への炭素隔離は、日本が目指す2025年カーボンニュートラル達成において重要な技術的課題である。本企画では、森、畑、田んぼ、山、平地など様々な地域や環境から集めた土壌モニタリングを一堂



第7弾
エノキタケ
榎茸、学名: *Flammulina velutipes*
生活習慣病に一役買ってくれる定番キノコ!

鍋や炒め物などには欠かせないシャキシャキとした歯触りの定番きのこ。加工品にはとろみのある「なめ茸」などもある。低カロリーで食物繊維も多く、毎日摂取すればコレステロールや中性脂肪の値が減り生活習慣病の予防にもなるとのこと。

そこで、江口学長がすすめる毎日手軽に摂取できる「えのき氷」を紹介する。味噌汁やスープ、カレーや煮物などにポンと入れるだけでOK! 気になる方はチェックしてみては。【文・寺田守一、写真・江口文陽(学長)】

東京農大を知るイベント好評博す



牛舎で説明を受ける参加者

キャンパスツアー

5月26日には厚木で、6月16日には世田谷でキャンパスツアーを開催した。厚木では760名と予想をはるかに上回る

受験生向けイベント続々開催ー全てのイベントで昨年を超える参加者が集まり、東京農大ならではの体験に満足度も高く、今後の情報などもぜひチェックいただきたい!

オープンキャンパス
in
北海道オホーツク

6月のオープンキャンパスでは前年同期の2倍を超える参加者を迎えた。プログラムにはキャンパス内のフライン・ト

来場者を迎え、施設見学ツアーや学生相談コーナー、大根収穫体験も満員の人気ぶりだった。世田谷では1673名の来場があり、学内見学ツアー、研究室ツアー等で賑わいを見せ、施設の充実さや学生・教職員の雰囲気に対する好評の声も多くあった。

富士農場
見学ツアー

6月30日に開催された富士農場見学ツアーでは、予約枠が早期に埋まるなど例年以上に希望者が多く、当日は69名が参加した。

4部門をローテーションで見学。日帰りツアーのため農場滞在時間こそ少ないものの、搾りたての牛乳がふるまわれた際には「おいしい」という声が多く満足していただけだった。

【石塚真維】

体験イベント満載!
受験生必読の企画
が溢れています

農大の学園祭!
農大生と一緒に
楽しみましょう

オープンキャンパス

世田谷: 8/3、8/4
厚木: 8/3、8/4
北海道オホーツク: 7/21、7/27、8/24、3/22
全キャンパス(オンライン): 8/21

収穫祭

世田谷: 11/1~11/3
厚木: 11/2~11/3
北海道オホーツク: 10/13~10/14

2025年

これからのイベント



バスツアー参加者と見送る学生

学生寮「青雲寮」着工 奥多摩演習林を活用

5月13日、東京農大 学生寮「青雲寮(せいいうんりょう)」の地鎮祭を行った。東京農大が所有する奥多摩演習林の国産材を活用した木造3階建ての準耐火構造建築で、住友林業(株)が設計・施工を行う。

「青雲寮」の特長二つ目は、学生の心身の健康を支える、木を活かした空間であること。「青雲寮」には農友会 陸上競技部の学生が入寮する予定だ。農友会 陸上競技部の長距離ブロック(男子)は、箱根駅伝に通算70回出場し、2024年には10年振りとなる出場を果たすなど競技力向上に努めている。木の特性を活かして心身ともに安らげる快適な空間をつくり、



学生と環境に優しい寮

学生がパフォーマンスを最大限に発揮できるようサポートしていく。特長二つ目は、国産材・東京農大の奥多摩演習林を活用した地産地消であること。学生が林業の研究や実習で利用している演習林のスキは、食堂の梁・柱や、階段、カウンタなどにも使用。直接見たり触れたりして体感できる学びの場として活用していく。

「青雲寮」は2025年1月末に竣工、2025年2月以降で環境が整いつつある。【石塚真維】



鋤入れをする江口文陽理事長

農友会 世田谷 オホーツク

硬式野球部 躍進

世田谷硬式野球部

東都大学野球春季2部リーグ戦優勝
1部・2部入替戦勝利

オホーツク硬式野球部

北海道学生野球I部春季リーグ戦優勝
第73回全日本大学野球選手権大会出場

選手たち
熱戦を制し勝利を讃えあう



全国への挑戦続く

歓喜の1部復帰

力投した先発の神宮僚介投手



令和6年度北海道学生野球I部春季リーグ戦において、7季連続37回目の優勝を果たし、第73回全日本大学野球選手権大会に5大会連続20回目の出場を果たした。

初戦は6月11日に明治神宮野球場にて阪神大学野球連盟代表の天理大学と対戦となった。初回に4番良元優斗(自然3年)のタイムリーヒットで1点を先制し、序盤は本学のペースで試合を進めた。しかし4回、粘投していた先発投手の神宮僚介(自然3年)が相手打線に捕まり逆転を許し、そこから一気に天理大の流れとなり、2番手投手の渡辺恵多(自然3年)、3番手投手の佐々木聖和(自然2年)も流れを止められず、1対8で初戦敗退となった。

明治神宮野球場には多くの学生、教職員、卒業生、関係者が足を運んでいた。全学応援団と共に声援をいただいたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

【監督 嶋田達郎】

た。なお、2部リーグではMVPに岡部大輝(投手、ビジネス2年)、ベストナインに古川朋樹(内野手、森林4年)、堂山航大(外野手、造園2年)が選ばれた。また、決戦となった入替戦第3戦ではエース長谷川優也(経済4年)が熱投で完投し(3安打1失点)、打線は3塁打5本を含む18安打12点の猛攻を見せ圧倒した。入替戦では平日にも関わらず学生、教職員をはじめ多数が来場され、全学応援団の凛とした応援のもと熱い声援をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

【部長 畑中勝守】

弓道部

第54回
全関東学生弓道選手権大会で
女子部が第4位を獲得



「一射入魂！」的に向かう女子部員の勇姿

6月15・16日に日本武道館で行われた「第54回全関東学生弓道選手権大会」において、弓道部女子部は団体の部で第4位の好成績を収めた。

今大会団体戦には、蝦名優花(微生物2年)・根元楓(健康4年)・河尻佳純(健康4年)が出場し、

【部長 井形雅代】

馬術部

第96回
関東学生馬術選手権大会
両角春翔さんが優勝



両角さんとゴルゴンダ(慶応大馬匹)

5月10日・12日にJRA馬事公苑で行われた「第96回関東学生馬術選手権大会」において、農友会馬術部が好成績を収めた。

主将の両角春翔(経済4年)が優勝を果たし、川上真生(ビジネス1年)が5位入賞、末吉響(ビ

予選通過後、決勝トーナメントでは法政大、日本大、桜美林大と、東京都リーグの強豪校に次々と競り勝ち準決勝に進んだが、惜しくも今大会の優勝校である筑波大に敗れた。

夏の全日本学生弓道選手権および秋のリーグ戦に向け、確かな手ごたえが得られた大会となった。

【部長 井形雅代】

相撲部

第103回
東日本学生相撲選手権大会
Aクラス団体戦で準優勝



(後左)木下・松澤・高橋・石川(前左)山下・石川・佐藤

第103回東日本学生相撲選手権大会が、6月9日、両国国技館で行われ、東京農大は、準優勝の好成績を上げた。

団体Aに出場した東京農大は、専修大、明治大、拓殖大、中央大を下し、準決勝では、優勝候補の東洋大から木下優希(森

林3年)、佐藤貴規(工学4年)、石川剛(開発4年)が勝点を上げ、決勝戦進出を果たした。

決勝戦では、日体大に敗れたものの秋の全日本学生選手権大会に向けて確かな手ごたえが感じられた。また、個人戦では佐藤貴規が、ベスト8まで勝ち進んだ。

【監督 安井和男】

荒川 弘<百姓貴族>
複製原画展

※アニメ全話上映会は、7月21日(日)のみ

会期：2024年7月21日(日)～7月31日(水)
9:00-22:00 ※最終日は16:00まで

会場：オホーツク・文化交流センター(エコセンター2000) 展示室

【主催】東京農業大学【共催】株式会社新書館、網走市、網走市教育委員会【後援】農林水産省

荒川 弘「百姓貴族×百頭目まこつ」
～真夏の複製原画展～

会期：2024年7月10日(水)～8月4日(日)
9:30-16:30 休館日/日曜日、月曜日、祝日
※最終日の8月4日(日)は閉館
※臨時休館もありますのでご注意ください。

会場：「食と農」の博物館

予約不要 入場無料

事前申込不要 入場無料

ホームカミングデー開催

令和6年 9月28日(土) 場所：世田谷キャンパス

イベント概要

■親子三代表彰 11:00～12:30
■特別対談 百周年記念講堂

豪華賞品が当たる!! 「抽選会」実施

最新情報や同窓会申込方法は、HP等で随時更新中

同窓会を開きませんか? クラブ、研究室、有志等お待ちしています

SDGs コンテスト

SDGsの目標×東京農業大学が掲げる「学びのキーワード」から、地域社会をより良くするために、君に今できる事・今から出来る事を考えよう!

作品募集 2024年7.1(月)～9.6(金)

応募対象 高校生

賞 最優秀賞(1作品) 優秀賞(2作品) 特別賞(2作品)

東都大学野球 春季 入替戦 駒澤大を下し

号外

農友会

世田谷硬式野球部

31年ぶり

1部 復帰



——勝利直後の気持ちは——

素直に嬉しいです。目標にしてきたところですし、こうして全員と戦えて。まず、この舞台に立てた嬉しさがあります。それ以上に勝ったことの嬉しさもあるので、とにかく嬉しいです。

——この後、さらには目標がありますか——

激励会の時に学長がおっしゃっていた通り、北海道オホーツク硬式野球部と、明治神宮野球大会の決勝戦で戦うことが目標なので、一部のリーグ戦を頑張って行きたいです。

——キャプテンにとって仲間とはどんな存在ですか——

苦しい時も、楽しい時も、喜怒哀楽全て含めて、自分に付いてきてくれましたし、共に汗を流し、涙し、喜んで、苦しんで、苦楽を共にしてきた大事な仲間なので、宝物です。

勝利インタビュー
キャプテン 和田泰征選手

3回戦

東農大	1	5	2	3	0	0	1	0	0	12
駒澤大	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

1回戦

駒澤大	0	0	0	0	0	3	2	0	0	5
東農大	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

2回戦

東農大	1	2	0	2	0	0	0	0	1	6
駒澤大	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2



世田谷硬式野球部は、令和6年度東都大学野球春季リーグ戦2部リーグにおいて24年ぶりとなるリーグ優勝を果たし、6月25〜27日に行われた入替戦において伝統ある強豪・駒澤大を相手に2勝1敗で勝利し、31年ぶりとなる1部復帰を果たした。

2部MVPに岡部投手

キャプテン和田泰征（内野手、経済4年）、副キャプテン江川岳（外野手、工学4年）、エース長谷川優也（経済4年）を中心に古川朋樹（内野手、森林4年、2部ベストナイン）、近藤想真（投手、工学4年）をはじめとする4年生がチームを引っ張り、岡部大輝（投手、ビジネス2年、2部MVP）、當山航大（外野手、造園2年、2部ベストナイン）ら下級生がそれに応えるなど、チーム一丸となって掴んだ2部優勝であった。

春のキャンプで手応え

この活躍にマスコミをはじめ多くが驚きをもって賞賛したが、予兆は春のキャンプからあった。3年目となる北口正光監督（PL学園―亜大―松下電気）は、春のキャンプを終え強い手応えを感じ

ていた。良い状態のままリーグ戦に入り、開幕2連勝するなど勝ち点を重ねながら自信を深め、完全優勝こそ逃したものの最終戦を待たずして勝ち点4で2部優勝を果たした。

監督の采配が冴えわたる

入替戦では、北口監督の采配が冴えた。後がない2戦目、2回のピンチでは2シーズンにわたり公式戦出場がなかった松村力（ビジネス4年）を登板させた。松村は監督の期待に応え、気迫溢れる投球で相手チームの勢いを止め、古川のツーラで一気に流れを掴んだ。この勝利で勢いに乗ったチームは3戦目、先発全員安打で序盤に試合を決め、長谷川の熱投で見事勝利した。

支えてくれる方の想いが大きな力に

チームの活躍を信じ支えてくれた主務・伊東諒太（開発4年）、本村侑也（ビジネス3年）らマネージャー達の存在も忘れてはならない。彼らの献身に敬意を表したい。最後に、全学応援団、会場内外で応援してくださったすべての皆様に感謝申し上げる。

【部長畑中勝守】